

(図1) 損益計算書のしくみとその見方

＜損益計算書＞		
〔経常損益の部〕		
(営業損益)		
I 純売上高		
1. 売上高	105,278	
2. 売上値引戻り高	326	104,952
II 売上原価		
1. 期首たな卸高	1,505	
2. 商品仕入高	41,975	
合 計	43,480	
3. 期末たな卸高	1,583	41,896
売上総利益		63,056
III 販売費及び一般管理費		
1. 従業員給与	32,414	
2. 広告宣伝費	134	
3. 発送配達費	5,256	
4. 減価償却費	4,413	
5. 地代家賃	4,271	
6. 通信交通費	960	
7. 水道光熱費	2,998	
8. 備品消耗品費	4,767	
9. その他経費	7,467	62,678
営業利益		378
(営業外損益)		
I 営業外収益		
受取利息	3	
雑収入	69	73
II 営業外費用		
支払利息	204	
雑損失	5	209
経常利益		242
〔特別損益の部〕		
I 特別利益		
固定資産売却益	362	362
II 特別損失		
税引前当期利益		604
法人税等		194
当期利益		410

～利益はどのように計算されているのか

3つの収益

純売上高

会社本来の営業活動から生まれた収益。会社収入の入り口、すべての利益のスタート。小規模事業者が赤字の場合、売上高の絶対不足が原因であることが多い。事業別に売上高勘定科目を表記することもある。

営業外収益

営業活動以外の収益。金融活動によって生まれた収益。例えば預貯金の利息、株式の配当金など。

特別利益

ある事業年度だけ臨時に発生した収益。固定資産の売却益など。

4つの費用

売上原価

販売業では、当期に販売された商品の仕入原価。製造業では、当期に販売された製品を工場で製造するためにかかった原価。適切な在庫評価が正確な原価に反映される。売上原価＝期首在庫＋当期仕入高－期末在庫

販売費および一般管理費

販売費は、商品や製品を販売するためにかかった費用。一般管理費は、会社全体を維持・管理するためにかかった費用。

営業外費用

営業活動以外にかかった費用や営業活動を支える金融費用。支払利息や手形割引料など。

特別損失

ある事業年度だけ臨時にかかった費用。固定資産の除却損など。

5つの利益

売上総利益

売上高から売上原価を差し引いた売買差益を表わす。粗利益、限界利益ともいい真の稼ぐ力を表す。業種・業態毎に標準値が見られる。

営業利益

本来の営業活動から生みだされた儲け。営業成績を表わす。顧客獲得コストと顧客維持コストのコントロール力が反映される。

経常利益

営業外の収益や金融費用を反映した会社の平常活動によって生みだされた利益。会社の平常時の状況を表した最終的な利益。

税引前純利益

当期の特殊事情を反映した場合の税金を引く前の利益。

税引後当期利益

会社の最終成果を表わす税引後の利益。貸借対照表の純資産に反映される。